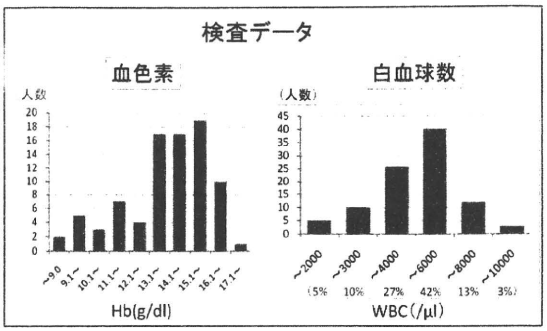

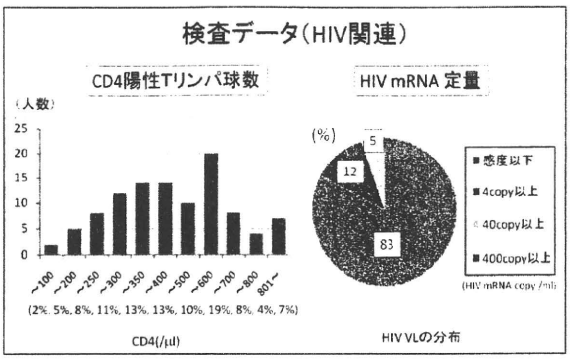

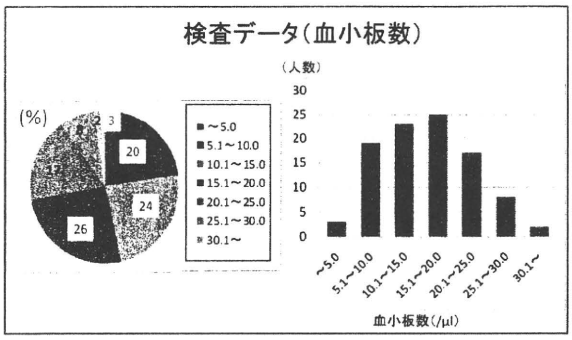

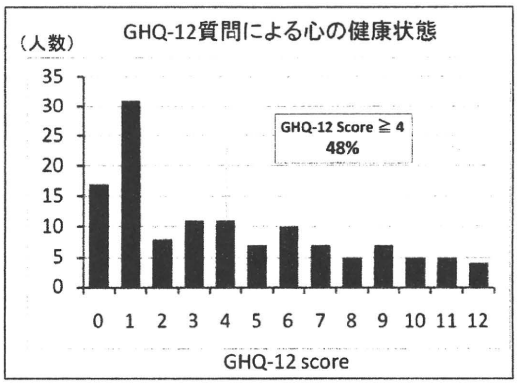

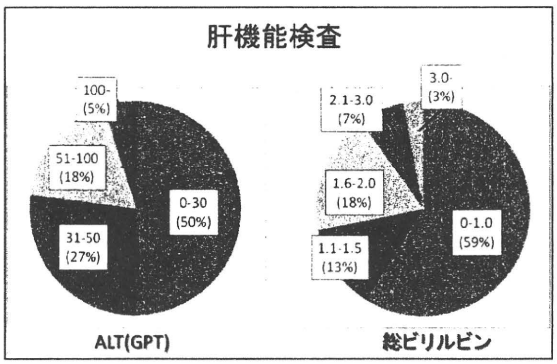

C型慢性肝炎に対する治療

- **インターフェロン　60 %**
  - **1回 32, ---- 18/32 (56%HCV negative)**
  - **2回 20, ---- 8/20 (40%HCV negative)**
  - **3回 6,**
- **SMC　34 %**
- **小柴胡湯　20 %**
- **ウルソ　18 %**
- **肝庇護剤　15 %**
- **瀉血　5 %**

D. 考察

HIV 感染症において非肝硬変性門脈圧亢進症とう病態が報告されているが、C 型や B 型慢性肝炎や肝硬変においても抗 HIV 薬剤起因性門脈血栓を生じやすいのか？さらに慢性肝疾患の進展要因なのかを明らかにしてゆく必要がある。

もし薬剤性門脈血栓症が、肝疾患の悪化要因であるとすれば、その予防や治療法は如何にすべきかが、次の問題となる。さらに HIV 感染症と治療薬による HCV 増殖や免疫系、肝脂肪化、代謝系、血液凝固・線溶系との相互作用も、問題となる。

肝発癌については、HIV 重複感染における HCV 関連肝発癌は、一般のC型肝炎に発生する肝細胞癌と同様に考えてよいかという疑問がある。肝癌が発生する時期も若年にシフトしているように見える。また病理学的な観点からすると、肝細胞癌だけでなく細胆管がんも考慮する必要があるのではないだろうか？

ベースの血友病という病態から見ると、関節症の治療（含む手術）やリハビリのあり方も、長

期予後を考える上で、重要な問題である。
例えば、
血液製剤の使い方は子供のときと同じままでよいのか？すなわち、予防投与や、年齢・合併症に応じて、凝固因子製剤の投与量や投与回数を変化させる必要があるのではないか？
インヒビターに対する対応は、現在のままでよいか？
急性疾患に罹患した場合や周術期の対処法は？
脳血管障害、骨粗鬆症、腎疾患（透析）、認知症などにおける予防と対応は？
就職支援、成人教育などの社会基盤充実は？
親や配偶者を介護する立場になった時の、支援は？
介護施設、ターミナルケア施設にたいする教育や支援は？
などが課題として挙げられている。

E. 結論

HIV・HCV 重複感染血友病患者の長期療養やターミナルも含めた長期療養モデルの社会医学的整備に向けた共通の方法論を開発することが重要である。

F. 健康危機情報

特になし。

G. 研究発表

大津留　晶

1. 論文発表

欧文

1）N. Inoue, H. Isomoto, K. Matsushima, T. Hayashi, M. Kunizaki, S. Hidaka, H. Machida, N. Mitsutake, A. Nanashima, F. Takeshima, T. Nakayama, A. Ohtsuru, M. Nakashima, T Nagayasu, S. Yamashita, K. Nakao, S. Kohno: Down-regulation of microRNA 10a expression in esophageal squamous cell carcinoma cells. Oncol lett 1:527-531, 2010.

2) S. Akita, K. Akino, A. Hirano, A. Ohtsuru, S. Yamashita: Mesenchymal stem cell therapy for cutaneous radiation syndrome. Health Phys 98(6):858-62, 2010.

3)S.Akita, K. Akino, A. Hirano, A. Ohtsuru, S. Yamashita: Non-cultured autologous adipose-derived stem cells therapy for chronic radiation injury. Stem Cells International (in press).

和文

1）大津留 晶、山下 俊一：甲状腺未分化癌 日本臨床 2011 年 3 月増刊号内分泌腺腫瘍—基礎・臨床研究のアップ・デート— (in press)

2）大津留 晶、SOH Sang-ryol、朝長 万左男、山下 俊一：在外被爆者検診・健康相談事業の現況と展望　長崎医学会雑誌 85:33-36,2010

3) 大津留 晶：海を渡った被爆者への支援活動『21 世紀のヒバクシャ』長崎新聞社新書 (in press)

4) 大津留 晶：被ばく医療の課題『21 世紀のヒバクシャ』長崎新聞社新書 (in press)

学会発表

国内

大津留　晶、山下俊一. HIV・HCV 重複感染血友病患者の長期療養に関する患者参加型研究、第 24 回日本エイズ学会学術集会・（財）エイズ予防財団共催セミナー、平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究推進事業）研究成果発表会、2010 年、東京

田中　純子

1．論文発表

欧文

1）Tanaka J, Koyama T, Mizui M, Katayama K, Matsuo J, Akita T, Nakashima A, Miyakawa Y, Yoshizawa H. Total Numbers of Undiagnosed Carriers of Hepatitis C and B Viruses in Japan Estimated by Age- and Area-specific Prevalence on the National Scale. Intervirology. 2010, (in press)

2) Tomoguri T, Katayama K, Tanaka J, Yugi H , Mizui M, Miyakawa Y, Yoshizawa H. Interferon Alone or Combined with Ribavirin for Acute Prolonged Infection with Hepatitis C Virus in Chimpanzees, Intervirology, 2010 (in press)

3) Kumada T, Toyoda H, Kiriyama S, Tanikawa M, Hisanaga Y, Kanamoti A, Tada T, Tanaka J, Yoshizawa H. Predictive value of tumor markers for hepatocarcinogenesis in patients with hepatitis C virus. J Gastroenterol (in press).

4) Kawaoka T, Aikata H, Takaki S, Hashimoto Y, Katamura Y, Hiramatsu A, Waki K, Takahashi S, Kamada K, Kitamoto M, Nakanishi T, Ishikawa M, Hieda M, Kakizawa H, Tanaka J, Chayama K. Transcatheter chemoembolization for unresectable hepatocellular carcinoma and comparison of five staging systems. Hepatology Research. 2010, 40: 1082-1091.

5) Noda I, Kitamoto M, Nakahara H, Hayashi R, Okimoto T, Monzen Y, Yamada H, Imagawa M, Hiraga N, Tanaka J, Chayama K. Regular surveillance by imaging for early detection and better prognosis of hepatocellular carcinoma in patients infected with hepatitis C virus. Journal of Gastroenterology. 2010, 45: 105-112.

和文

1）北本幹也、野田育江、林亮平、松本陽子、井川敦、山田博康、今川勝、岡崎肇、和田崎晃一、門前芳夫、小橋俊彦、中原英樹、板本敏行、田中純子、茶山一彰. 肝細胞癌スクリーニングにおける画像診断反復の意義, 広島医学, 2010, 45: 156-161.

2) 田中純子、松尾順子. ウイルス肝炎の疫学, 最新医学, 2010, 65: 13-20.

3) 田中純子、片山惠子. B型およびC型肝炎ウイルス感染, 治療学, 2010, 44: 14-17.

4) 田中純子. 医学研究のデザイン. 予防医学指導士テキスト. 2010, 157-159

5) 田中純子、秋田智之. 医用データと統計的推測の考え方. 予防医学指導士テキスト. 2010, 151-156

6) 田中純子. スクリーニングの理論. 予防医学指導士テキスト. 2010, 145-150

7) 井廻道夫、田中純子、熊田博光、小池和彦. 肝炎ウイルス感染の現状と新しい治療法. 治療学. 2010, 44(9):73-80

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定も含む。）

1.特許取得

無し

2.実用新案登録

無し

3.その他

無し

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
HIV・HCV 重複感染血友病患者の長期療養に関する参加型研究
平成２２年度　分担研究報告書

全国実態調査　患者背景調査研究

分担研究者：柿沼 章子
（社会福祉法人はばたき福祉事業団　事務局長）

研究要旨

全国の薬害 HIV 感染被害患者の実態を把握し、より良く生きてくために必要な支援モデルを検討するために、聞き取り調査を行った。58 名の対象者（男性 57 名、女性 1 名、平均年齢 42.9 歳±8.9）に聞き取りを行い、健康状況、生活状況、経済状況、将来の展望について把握し、長期療養の課題について重要な知見を得ることができた。

A．研究目的

薬害 HIV 感染被害患者は、薬害エイズ訴訟和解以後、HIV 医療体制の構築や HAART 療法の導入により、生き続ける可能性が大きくなった。しかし一方で、感染被害から 25 年以上が経過し、合併症等の問題や高齢化、独居など、新たな長期的な問題が生じている。原疾患である血友病も含め、未知の領域に突入することになり、当事者も医療者も明確な将来像を描くことは困難である。

本研究では、こうした状況を踏まえて、聞き取り調査を行い、血友病や HIV、HCV の病状や生活領域全般、制度やサポートの受給状況等の現状を把握することとした。そして今後の長期療養について、各自がより良く生きていくために必要な支援モデルを検討した。

B．研究方法

（1）調査対象者および主要な聞き取り内容

構造化面接法及び半構造化面接法に基づく面接調査を平成 22 年 9 月～12 月にかけて行った。

全国の薬害 HIV 感染被害患者を対象に行い、主要な聞き取り内容は、以下である。

a)血友病、HIV、HCV 等の健康状態
b)日常生活状況
c)経済状況
d)将来の展望

（2）インタビュー方法

事前にアポイントをとり、対象者の近隣の会議室にてインタビューを行った。インタビュワーは患者支援団体、長崎大学の研究員が担当し、事前に専門家によるトレーニングを受講した。

（3）インタビュー記録

インタビューの質問は、事前の研究班会議により精査し、新たに作成したインタビューガイドに沿って実施した。インタビューは概ね 1 時間程度であった。インタビューについては、調査協力者の同意を得た。記録は、音声記録、トランスクリプトデータ、事前・事後情報、研究者による統一した様式によるメモによる 4 つの方法で記録した。

(4) 分析について

今後、インタビュー記録をもとに分析を行う。

(倫理面への配慮)

本研究は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(医学系)倫理委員会に諮り、平成22年7月28日承認を得た上で、研究を実施した(承認番号10072890)。インタビューでは、調査協力者には研究の趣旨・目的を説明し、データの取り扱いについて匿名化を行うこと、成果発表では研究協力者が同定されないよう行うこと、インタビュー記録については、研究目的以外に使用しないこと、参加同意はいつでも撤回でき撤回による不利益はないこと、について、文書同意を得た。事前説明と調査対象者の意向の尊重を徹底することにより、全ての調査協力者は自発的な調査への参加となるようにした。全ての研究協力者に対して、知りえた情報についての取り扱いについて指導を徹底して行い、データ使用に関しては、情報管理・秘密保持について文書にて同意書を結び、期限付きでデータ使用許可を与えた。

C. 研究結果

58名の対象者に聞き取りを行い、主要な結果として、以下が得られた。

1)調査対象者の属性・特性

・年齢、性別

20代2名、30代19名、40代23名、50代11名、60代3名

男性57名、女性1名(二次感染被害者)

・地域別の分布

北海道4名(北海道4)

東北6名(秋田1、宮城5)

東京9名(東京9)

関東11名(栃木1、茨城1、埼玉1、千葉1、神奈川7)

甲信越3名(長野1、新潟2)

東海4名(愛知2、岐阜2)

北陸0名

近畿2名(大阪1、兵庫1)

中・四国5名(広島4、山口1)

九州・沖縄14名(長崎2、大分3、宮崎4、鹿児島1、沖縄4)

a)血友病、HIV、HCV等の健康状態

・HIVの状態

CD4:100以下:2名、101～200:3名、201～300:6名、301～400:13名、401～500:9名、501以上:24名)

ウイルス量:検出限界以下:49名、1000以下:3名、1001～5000:0名、5001～10000:1名、10001以上:2名、不明:2名

・肝臓の状態

肝がん:1名、肝硬変:8名、慢性肝炎:7名、ウイルス消失:8名、ウイルス検出限界以下:5名、ウイルス量多い:3名、完治:5名、良い:5名、悪い:2名、

b)日常生活状況

・手帳取得状況(判明分のみ)

1級:9名、2級:16名、3級:3名、4級:2名、5級:1名、なし:5名

c)経済状況

・就労状況

就労:39名、未就労:19名

・年金受給状況(判明分のみ)

1級:8名、2級:18名、なし:8名、遺族年金:1名

・和解金の有無

全額:5名、半分以上:4名、半分:2名、

半分以下：11名、金額不明：10名、なし：24名、不明：2名

・移動の方法

車いす：4名、車可：41名、車不可：2名、自転車：2名、公共交通機関7名

d)将来の展望（複数回答）

医療費：4名、金銭：6名、施設：11名、介護：6名、仕事：29名、治療：26名、体調：20名、補助具：3名、結婚：11名、子ども：5名

D．考察

一連の調査により、対象者の属性、健康状況、生活状況、経済状況、将来の展望について把握した。

血友病、HIV、HCV等の健康状態

血友病やHIV、HCVに加え、抗HIV薬の長期服用による新たな副作用や合併症、生活習慣病など、薬害HIV感染被害者は現状では完治することのない疾患の治療をしつつ、将来新たに発生するかもしれない未知の疾患にも備えなければならない。また継続的な治療が必要ではあるが、移動の困難さを抱える者がおり、特に地方在住者では顕著だった。健康状態への不安や終わることのない治療への負担は大きく、医療機関が今後登場する新しい薬や治療法の情報提供し、患者一人ひとりの将来の治療方針を立て、本人へ提示することも重要と思われる。

b)生活状況

移動の困難を抱える者には、日常生活にも困難があった。手帳の取得状況をみると、多くの者が取得しており、特に1級、2級の重度障害者が多数を占めており、生活状況の困難さを示唆している。また、一方で手帳を取得していない者もおり、その理由は今後の検討である。

c)経済状況

就労していない者が多く、年金や恒久対策である健康管理費用等に生計を頼っているのが現状である。また家族から経済的支援を得ている者は、親の高齢により、独居や家族支援が受けられなくなった場合の経済的負担は、さらに厳しくなると思われる。就労が一層厳しくなる中で、自分以外からの支援は得られなくなり、経済的自立困難が見込まれる。

d)将来の展望

治療や体調への不安が多くの者から語られた。また施設入所を希望する者がいる一方で、自宅での療養を希望する者もいた。そうした患者を支えるのは家族であるが、親の高齢化や未婚により将来的な支援は得られにくい。また、逆に患者が年老いた親を介護するケースも見られ、家族間の支えも限界にきていると推察される。

E．結論

薬害HIV感染被害患者の聞き取り調査を行った。今後の健康状況や生活状況等を向上させるため実態を把握し、長期療養の課題についての重要な知見を得ることができた。

次年度以降、引き続き聞き取りを継続するとともに、新たな健康状況の医学的な知見、健康状況の推移に即応した対応を調査に加え、分析を進めていきたい。健康状態としては、HIVや肝炎は自覚症状が少ないため、血友病の症状にとらわれてしまいがちであるが、生命の危機につながるHIV、肝炎への意識が低くなっていることへの対応が必

要である。生活状況としては、家族の高齢化の中で、被害患者も高齢化し、将来的に家族全体の支援の中から次第に孤立していくことが危惧される。経済状況としては、年金及び恒久対策による手当等、被害者の得られるわずかな収入を支柱として生計を立てている。これらが自立の支えとなっているが、同じく家族の高齢化の中で、将来的な不安が大きい。その3つを検討し、患者が自立し、よりよく生きていくための支えとなるサポートとはどういうものがあるかが、恒久対策として重要なポイントとなる。

F．健康危機情報

特になし。

G．研究発表

論文発表

欧文

1）Stamatats, L., Werner, A., and Cheng-mayer, C. Differential regulation of cellular tropism and sensitivity to sCD4 neutralization by the envelope gp120 of human immunodeficiency virus type1. J. Virol. 68: 4973-4979, 1994.

和文

1）俣野哲朗. AIDS ワクチンの動物モデル. 治療学. 35:224-227, 2000.

学会発表

海外

1）Nakasone, T., Hara, T., Naganawa, S., Takamatsu, J., Kaizu, M., Takizawa, M., Ohsu, T., Kawahara, M., Izumi, Y., Yoshino, N., Yamada, K., Nagai, Y., and Honda, M. Biological and genetic analysis of HIV-1 in Japan: 12 years observation. The 13th International AIDS Conference. July 9-14, 2000, Durban, South Africa.

国内

1）森 一泰、保富康宏、扇本真治、仲宗根正、本多三男、向井鐐三郎、塩田達雄、永井美之. SIV Env の糖鎖は持続感染、病原性の決定因子である. 日本エイズ学会、2000年、京都.

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定も含む。）

1.特許取得

無し

2.実用新案登録

無し

3.その他

無し

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
HIV・HCV 重複感染血友病患者の長期療養に関する参加型研究
平成２２年度　分担研究報告書

HIV・HCV 重複感染血友病患者における精神健康の評価と調査

研究分担者：中根　秀之
（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科精神保健学 教授）

研究要旨
HIV・HCV 重複感染者に関する精神健康についての調査研究のレビューを行い、HIV・HCV 重複感染者に関する精神健康には多くの問題を抱えていることが明らかとなった。このような精神障害を抱えることは、本人および家族を始めとするケアギバーの QOL、行動、治療アドヒアランスの低下に影響をもたらすことが考えられた。これらの結果をもとに、本研究におけるアンケート調査や、聞き取り調査において精神健康の評価尺度について再検討し、2010 年度調査においてアンケート調査、聞き取り調査の調査票の開発を行った。

A．研究目的

これまで、HIV 感染症、AIDS または、HCV 感染症患者それぞれにおいてはその精神健康に関する調査研究がなされている。しかし、重複感染者の精神健康について述べている調査研究は、限られている。
このため、初年度ではまず HIV・HCV 重複感染者に関する精神健康についての調査研究のレビューを行い、アンケート調査、聞き取り調査の実施に向けて調査票の開発を行うこととした。

B．研究方法

まず、HIV 感染症、AIDS または、HCV 感染症患者それぞれにおける精神健康に関する調査研究についてレビューする。次に Pubmed におけるデータベースをもとに「HIV」「HCV」「Hemophilia」「Mental」「Psychiatry」等の専門用語をもとに検索した。

（倫理面への配慮）

Pubmed の利用のため、特に倫理的配慮は必要としない。アンケート調査、聞き取り調査実施に向けて倫理委員会にて承認を受けるための諸書式を作成した。その結果、本調査の実施については、長崎大学病院および長崎大学医学系倫理委員会にて承認を得た。

C．研究結果

（1）先行研究

Pubmed
（http://www.ncbi.nlm.nih.gov/sites/entrez?db=pubmed）の全データベースを利用して、いくつかの検索を行った。キーワード設定において、「HIV」「HCV」「Hemophilia」では、297 件あったものが、「Mental」あるいは「Psychiatry」を加えると 0 であった。このため「HIV」「HCV」「Hemophilia」に「Mental」あるいは「Psychiatry」を掛け合わせて検索した。その結果を、表 1 に示す。

その結果、HIV 関連での精神健康あるいは精神医学的な論文が多くを占めていることが明らかとなった。一方で、HIV/HCV の重複感染についても、数は多くは無いものの23、48 の論文をみることができる。HIV 感染の増加に伴い、HIV の精神医学的問題に関する報告も年々増えてきている。このように精神保健、あるいは精神医学的側面は注目されてきていると考えてよいだろう。

表 1　Pubmed データベース検索の結果

	mental	psychiatry
HIV	3584	4219
HCV	253	118
Hemophilia	104	70
HIV+HCV	86	47
HIV+Hemophilia	23	48
HCV+Hemophilia	1	0
All	0	0

(2) HIV、HCV における精神医学的問題

HIV 感染者においては、認知症、せん妄、薬物関連障害、気分障害（大うつ病、抑うつ状態、躁状態、混合状態、気分変調症）、適応障害、心的外傷後ストレス障害、喪失体験などが認められることが知られている。1980 年代の調査では、精神障害の有病率は、38%とされていたが、最近の調査では、74%-98%の HIV 患者に治療を必要とする精神疾患を抱えていることが指摘されている。Wallack らは、1989-1994 年の Beth Israel Hospital での調査において認知症 22%、せん妄 29%、薬物関連障害 36%、気分障害（うつ病）14%と報告している。

また、HCV 感染症については、感染による精神症状でもあり、インターフェロン治療による感情障害、特にうつ病が問題となることが知られている。海外報告では、うつ病の有病率は 9-37%と報告されている。IFN 療法中の C 型慢性肝炎患者 85 人を前方視的に追跡した大坪らの報告では、IFN 療法中にうつ病エピソードを満たした者が 37.3%、IFN を中止したのは 9 例（10.6%）であり、その主な理由が精神症状によるものが 4 例（4.7%）であった。さらに、積極的な精神科治療か IFN の中止が必要であったのは 14.1%と報告されている。

17) 大坪天平,宮岡等,上島国利ほか：C型慢性肝炎患者のインターフェロンによる抑うつ状態に関して-前方視的研究-. 精神経誌 99: 101-127 (1997)

Peg-IFN は週 1 回投与であり患者の負担が少ないが、患者の高齢化により精神症状の頻度は IFN 単独でも Peg-IFN/リバビリン併用療法でもほぼ同様である。

HIV と HCV の重複感染患者の精神症状についての報告も散見されるようになってきている。HIV/HCV 重複感染患者では、HIV 単独感染に比較し認知機能の低下を認める傾向が指摘されている。

これらのような精神障害を抱えることで、本人および家族を始めとするケアギバーの QOL、行動、治療アドヒアランスの低下に影響をもたらす。このため、身体的治療に加えて、精神医学的治療・ケアも必要であると考える。

これらの結果を踏まえ、我が国の HIV・HCV 重複感染血友病患者における精神医学的問題についてまず明らかにするべく、アンケート調査および聞き取り調査を計画することとした。この中に標準化された精神医学医学的評価尺度を採用し、実態把握につとめることとした。すでに 1998 年、2005 年に調査がなされているため、この際の調査票を

もとに全体を見直し、再構成することとした。アンケート調査では、GHQ-12、SOC 等の評価尺度を用いた。また、聞き取り調査では、診断ツールとして MINI、より詳細な精神健康状態把握のため GHQ-28 、社会機能評価のため DAS を採用し、これ以外にも当事者のニーズについても尋ねることとした。

E．結論

本年度は、まず HIV・HCV 重複感染者に関する精神健康についての調査研究のレビューを行った。この結果、HIV・HCV 重複感染者に関する精神健康には多くの問題を抱えていることが明らかとなった。このような精神障害を抱えることで本人および家族を始めとするケアギバーの QOL、行動、治療アドヒアランスの低下に影響をもたらす。このため本研究におけるアンケート調査や、聞き取り調査において精神健康の評価尺度について再検討することから始めた。これにより、K20K10 年度調査においてアンケート調査、聞き取り調査の調査票の開発を行った。アンケート調査においては、精神健康全般、ストレス対応能力等について評価することとした。さらに聞き取り調査では、診断ツール、より詳細な精神健康状態、社会機能に含め、当事者のニーズについても尋ねることとした。

F．健康危機情報

特になし。

G．研究発表

原著論文による発表

欧文

特になし

学会発表

海外・国内

特になし

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定も含む。）

1.特許取得

無し

2.実用新案登録

無し

3.その他

無し

研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表
(‘2010年4月1日～2011年3月31日迄)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Rumyantsev PO, Saenko VA, Ilyin AA, Stepanenko VF, RumyantsevaUV, Abrosimov AY, Lushnikov EF, Rogounovitch TI, Shibata Y, Mitsutake N, Tsyb AF, Yamashita S.	Radiation exposure does not significantly contribute to the risk of recurrence of Chernobyl thyroid cancer.	J Clin Endocrinol Metab	96	385-393	2011
Saenko V, YamashitaS,	Chernobyl thyroid cancer 25 years after: in search of a molecular radiation signature.	Hot Thyroidology	8/10		2010

Takahashi M, Saenko VA, Rogounovitch T I, Kawaguchi T, Drozd VM, Takigawa-Imamura H, Akulevich NM, Ratanajaraya C, Mitsutake N, Takamura N, Danilova LI, Lushchik ML, Demidchik YE, Heath S, Yamada R, Lathrop M, Matsuda F, Yamashita S Akino K, Hirano A, Ohtsuru A, Yamashita S	The FOXE1 locus is a major genetic determinant for radiation-related thyroid carcinoma in Chernobyl	Hum Mol Genet	19	2516-2523	2010

研究成果の刊行に関する一覧表
(‘2010年4月1日～2011年3月31日迄)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Watanabe D, Uehira T, Yonemoto H, Bando H, Ogawa Y, Yajima K, Taniguchi T, Kasai D, Nishida Y, Shirasaka T.	Sustained high levels of interferon-gamma during HIV-1 infection: Specific trend different from other cytokines	Viral immunology	23	619-625	2010
Watanabe D, Taniguchi T, Otani N, Tominari S, Nishida N, Uehira T, Shirasaka T.	Immune reconstitution to parvovirus B19 and resolution of anemia in a patient treated with highly active antiretroviral therapy	J Infect Chemother	in press	in press	in press

Hattori J, Shiino T, Gatanaga H, Yoshida S, Watanabe D, Minami R, Sadamasu K, Kondo M, Mori H, Ueda M, Tateyama M, Ueda A, Kato S, Ito T, Oie M, Takata N, Hayashida T, Nagashima M, Matsuda M, Ibe S, Ota Y, Sasaki S, Ishigatsubo Y, Tanabe Y, Koga I, Kojima Y, Yamamoto M, Fujita J, Yokomaku Y, Koike T, Shirasaka T, Oka S, Sugiura W	Trends in transmitted drug-resistant HIV-1 and demographic characteristics of newly diagnosed patients: Nationwide surveillance from 2003 to 2008 in Japan.	Antiviral Res	88	72-79	2010

研究成果の刊行に関する一覧表
(‘2010年4月1日～2011年3月31日迄)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Takahashi N, Wakita H, Miura M, Scott SA, Nishii K, Masuko M, Sakai M, Maeda Y, Ishige K, Kashimura M, Fujikawa K, Fukazawa M, Katayama T, Monma F, Narita M, Urase F, Furukawa T,	Correlation Between Imatinib Pharmacokinetics and Clinical Response in Japanese Patients With Chronic-Phase Chronic Myeloid Leukemia	Clin Pharmacol Ther	88	809-813	2010

Miyazaki Y, Katayama N, Sawada K					
Jinnai I, Sakura T, Tsuzuki M, Maeda Y, Usui N, Kato M, Okumura H, Kyo T, Ueda Y, Kishimoto Y, Yagasaki F, Tsuboi K, Horiike S, Takeuchi J, Iwanaga M, Miyazaki Y, Miyawaki S, Ohnishi K, Naoe T, Ohno R	Intensified consolidation therapy with dose-escalated doxorubicin did not improve the prognosis of adults with acute lymphoblastic leukemia: the JALSG-ALL97 study	Int J Hematol.	92	490-502,	2010

研究成果の刊行に関する一覧表
(2010年4月1日～2011年3月31日迄)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Akiyama M, Ichikawa T, Miyaaki H, Motoyoshi Y, Takeshita S, Ozawa E, Miuma S, Shibata H, Taura N, Nakao K	Relationship between Regulatory T Cells and the Combination of Pegylated Interferon and Ribavirin for the Treatment of Chronic Hepatitis Type C	Intervirology	53	154-160	2010
Akahoshi H, Taura N, Ichikawa T, Miyaaki H, Akiyama M, Miuma S, Ozawa E,	Differences in prognostic factors according to viral status in patients with hepatocellular carcinoma.	Oncology Reports.	23	1317-1323	2010

Takeshita S, Muraoka T, Matsuzaki T, Ohtani M, Isomoto H, Matsumoto T, Takeshima F, Nakao K.					

研究成果の刊行に関する一覧表
(‘2010年4月1日～2011年3月31日迄)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Kurosaki M, Sakamoto N, Iwasaki M, Sakamoto M. Suzuki Y, Hiramatsu N, Sugauchi F, Yatsuhashi H, Izumi N	Pretreatment prediction of response to peginterferon plus ribavirin therapy in genotype 1 chronic hepatitis C using data mining analysis	J Gastroenterol	in press	in press	in press
Tateyama M, Yatsuhashi H, Taura N, Motoyoshi Y, Nagaoka S, Yanagi K, Abiru S, Yano K, Komori A, Migita	Alpha-fetoprotein above normal levels as a risk factor for the development of hepatocellular carcinoma in patients infected with hepatitis C virus	J Gastroenterol	in press	in press	in press